

5. 共稼ぎ家庭と一般家庭の夫婦の生活の時間的構造について

昭和30年の調査との比較

埼玉大 稲葉 ナミ

○三東 純子

1. 主婦が職業をもつことが夫婦の生活の時間的構造にどのような影響を与えるかについて昭和30年に稲葉が調査報告した。その後6年間に、国民の生活は豊かになり、余暇を尊重する傾向が強まってきているので、これに伴ない、夫婦の生活時間構造が変化しているのではないかと考えられる。この変化の有無、および変化があればその内容について比較検討することによって、家庭生活改善をはかる上に何等かの寄与ができれば幸と思う。

2. 前調査と同様に、夫が東京都内の公立中学校教諭で、都内に在住する家庭の中から、家族構成の近似した共稼ぎ家庭と一般家庭とを、なるべく同一学校内から選んで調査の対象として、昭和36年5月下旬から6月上旬の間の平日と休日とに、タイムスタディの方法で調査し前調査との比較を行なった。

3. 全体的に職業労働の時間が減少したようである。

それに代って、生理的生活時間、殊に平日のそれが増して、平日と休日との差が減少しており、また、夫の家事労働時間が増加しているなどの変化がみられる。職業労働の時間の減少が直ちに余暇時間として楽しまれているとは、いえないようである。